

どろろが 大田市で お祭り

大田市ふるさと情報誌

VOL.24

2013.6

仁摩町に集積する

船舶設備修繕のスペシャリスト

大田市の漁業を支える

縁の下の力持ち

大田市仁摩町には、大田市の主要産業の一つである漁業を支えるスペシャリストが集まっています。

それは、船舶の船体修理や関連設備の修繕を専門に行う技術集団企業のみなさんです。



和江漁港船場に並ぶ一本釣り船舶

大田市の漁業

大田市には、22の港があり、そこを拠点に、小型底引き網、まき網、一本釣り、はえ縄、定置網などの漁業がおこなわれています。

漁獲量は、年間約8千トン、30億円の水揚げがあり、水揚げされた魚は、その日のうちに関西や九州の市場に出荷されています。

今年の9月には、静間町にある和江漁港に県内でも有数規模の統合市場が開設される予定です。すでに建設工事が施工されており、今後ますます期待される産業となっています。



▲仁万漁港上架施設で修理された船舶

仁摩町に集中

こうした大田市の漁業を支える企業が、以前は静間町和江地区や五十猛町大浦地区、温泉津町温泉津地区にもありましたが、現在は仁摩町仁万地区内に集積する7社のみとなっています。市内、県内はもとより県外からも修理の依頼があるなど希少な職種として活躍しています。

多様な修理に対応

船舶関係設備と一言で言っても、内容は多種多様で、船体、エンジン、漁労

器具、魚群探知機等の電子機器に至るまで、漁船に必要な様々な設備の設置や修理を手掛ける、漁業には欠かせないのでできない縁の下の力持ちです。

漁港に係留された船舶内で、場合によっては修理の必要な部分を取り外し、工場を持ち帰って、さらには、船舶を上架施設等上架して修理するなど、船体や設備の修理箇所や状態に合わせた対応をしています。

漁港に係留される船舶内での作業は、スペースが限られている上、揺れもあるため、根気のある作業ですが、故障した船が少しでも



▲和江漁港に係留された修理中の船舶

◆ 企業紹介 ◆

(有)本國船舶工業所

代表取締役 本國 利幸
エンジン、漁労器具設置及びメンテナンス
仁摩町仁万1987-72
☎0854-88-2747

(有)原船用工業

代表取締役 原 祐治
エンジン、漁労器具設置及びメンテナンス
仁摩町仁万1987-48
☎0854-88-2833

小川鉄工所

代表 小川 吉秀
エンジン、漁労器具設置及びメンテナンス
仁摩町仁万1803-4
☎0854-88-2845

中島鉄工所

代表 中島 龍夫
エンジン、漁労器具設置及びメンテナンス
仁摩町仁万1470
☎0854-88-2517

早く漁に戻れるように、迅速な修理を心がけておられます。

メンテナンス技術の伝承

昭和30年代頃までは木材を材料とした木船が主流でしたが、現在は船体の軽量化や耐久性の向上のため、FRPやアルミニウム等を素材とした船舶に変わりました。又、船内機器も省エネの機器等が主流となり高度なものとなっており、それをメンテナンスする現場の技術力がさらに重要となってきました。



▶係留されたまま船舶内で行われるエンジンの修理

◀工場での修理のため、エンジンを取り外しているところ



後継者が課題

しかし、最近では個人事業主を含む7社は、そのメンテナンス技術を伝承する使命を持ちながらも技術者の高齢化や後継者不足に悩まされています。

このままでは、事業自体の継承も危ぶまれ、大田市や県内外などの水産業を支える業種としても危機的状況にあるといえます。

この解決策の一つとして、後継者対策は喫緊の課題

となつていきます。

今回、ご紹介したように、船舶関係設備修繕という業種は、希少な職種です。この企業の皆さんの力があつてこそ、小型底引き網漁や一本釣漁に代表される大田市の主要産業を守り、漁業を支えているといえるでしょう。

今後は、一人でも多くの若者がこの業種への担い手となるよう応援したいものです。



◀取り外した揚網機の修理



荒瀬好行さん(84)は、大田市仁摩町在住で、木船造船及び補修、修繕に携わって70年の大ベテラン職人です。手作りの木船を作る技術者は大田市内では荒瀬さんひとりということですが、大田市に残る貴重な財産です。

また、日本の造船技術(木船造船)の歴史を伝えるため、荒瀬さんが技術を結集して制作された模造船(写真)を大田市へ寄贈さ

荒瀬造船所

代表 荒瀬 弘之
船体(木船、FRP船)の補修、修繕
仁摩町仁万1802-25
☎0854-88-2408

(有)中和電機公司

代表取締役 原 勝正
船舶用電機設備及びメンテナンス
仁摩町仁万1798-23
☎0854-88-2225

荒瀬好行

船体(木船、FRP船)の補修、修繕
仁摩町仁万1987
☎0854-88-2557

れ、五十猛まちづくりセンターで展示されています。(実寸法の1/2)
・開館時見学可能

【問合せ】記事に関する問い合わせは、大田市産業振興部産業企画課まで(☎82-1600)

相馬正人さん(47)

東京都出身

昨年12月から研修中の相馬さん。飛び込みでやってきた初めての土地で、農業技術習得に向け頑張っています。



島根の最初の印象をお聞かせください。

島根のみなさんは温かい人が多いと思った反面、冬の寒さには驚きでした。

何か心配したことは？

縁もゆかりもない人を受け入れてくれるかどうか、大変心配しました。

島根を選んだポイントは何？

サラリーマン時代、たまに島根の方とお話することがあり、よい印象を持っていました。また、Uターン希望を全市町にメールしたところ、大田市が最も早く、また親切に対応していただいたのも決め手となりました。

将来の目標は？

農業を中心に暮らしていけるようになれば、私も都会からUターン者を受け入れていきたいと思えます。

Uターンされる方へのメッセージをどうぞ

人々の食卓を支える農業、自然が相手で経験が頼りの世界です。「正しい道を選択した」と思えるよう、今は研修を頑張っています。やればできると信じています。みなさんもいかがですか。

農家さんによる Uターン者の 研修受入が始まりました

大田市温泉津町は、アムスメロンや西条柿の産地として知られています。生産者のみなさんは、温泉津町特産物促進協議会を組織し、長年にわたり生産と販売振興に尽力してきました。

しかし、近年は少子高齢化や担い手不足等から、同協議会も産地縮小の恐れが出てきています。

この状況を何とか克服しようと、昨年Uターン者の方々を対象とする研修生受け入れを図り、産地の維持拡大に向けた取り組みを始めました。

メロンの栽培技術の習得に向け、地域でがんばる3人の方々をご紹介します。

受け入れ 農家さんの 横顔



メロン栽培40年
藤田文男 さん

温泉津町
特産物促進協議会

初めての土地で農業に取り組み相馬さんや殿山さんとお話すると、かつての記憶がよみがえります。

40数年前のこと、いざ就職となった私は、和歌山のみかん農家で働くことを決意。単身、住み込みでの農作業が始まりました。あの時の経験が、その後の人生の糧になっています。

私が受け入れ農家を引き受けたのも、お世話になったみかん農家さんに近づきたい気持ちがあるからかもしれません。

農業は健康が第一です

が、何より好きでないとで続けられません。勤務時間が決まっているわけではなく、時には天候に裏切られることも…。自分で判断し、行動することが求められますが、そこが面白いところだと思っています。

研修生のみなさんは「やる気」を持ってきています。よい結果がでるよう、期待しています。

みかん農家さんとは、生産者同士、今でもよいお付き合いをしています。研修生の方々を始め、人との縁は大切なものだと感じています。

温泉津町特産物 促進協議会とは？

温泉津町特産のアムスメロンと西条柿の生産者で組織する団体で、藤田さんは会長を務めています。

温泉津町の特産振興を図るとともに、安定した生産体制の構築や、新たな販売先を開拓しています。

メロンを養液栽培で生産

相馬さん、殿山さんが取り組んでいるのは、メロンを液肥で栽培する栽培技術の習得です。これは、鳥根県農業技術センターが開発した技術で、温泉津特産協では平成21年から導入を進めています。漁業者が魚を入れる容器（通称：トロ箱）にヤシガラなどの培地を敷きつめ、液肥を流して栽培することから、「トロ箱栽培」とも呼んでいます。

トロ箱栽培の利点

土壌由来の病気が軽減

地面と接していないので、土壌由来の病気の軽減を図ることができます。

作業労力の軽減

トロ箱栽培では耕運、うね立てなどの作業が必要ないため、作業時間が大幅に削減されます。

温泉津では、これを利用して従来の年2作からメロンを年2回、冬にはレタス収穫する年3作を実現し、地元のほか山陽、関西方面にも出荷しています。



「トロ箱」へメロンの定植作業



殿山正記さん(45) 殿山裕子さん(43) 神奈川県出身

昨年の就農相談会ツアー参加がきっかけとなり、平成25年2月から研修中です。

鳥根の最初の印象をお聞かせください。

昨年のツアー参加時に、みなさんの温かさや優しさを感じることができました。

何か心配したことは？

やはり冬の寒さでしょうか。でも、今年は心配していた雪が少なくて助かりました。

鳥根を選んだポイントは？

農業やメロン栽培には、以前から興味を持っており、就農の手がかりを探して東京の「日本橋しまね館」を訪問したことです。1か月経たないうちに就農相談会ツアーがあり、早速申し込みました。

将来の目標は？

できれば、メロンのトロ箱栽培で生計を立てて行きたいと思っています。

UIターンされる方へのメッセージをどうぞ

こちらに来てから、天気が気になる生活が始まりました。肉体的なつらさにもなれつつあります。視点を変えれば、地元にはいいところがたくさんあります。UIターン、ぜひご一考を。

神々の国しまね 就農相談会ツアー

8月

鳥根県が主催する就農相談会で、今年で2回目を迎えます。東京と大阪からバスを運行し、現地視察を通じて鳥根での農業を具体的にイメージすることができます。

日程 8月30日(金) 22時 東京駅発
8月31日(土) 7時 新大阪駅発
⇒鳥根県立農林大学校 12時30分着
合同相談会 (13時30分～)
9月1日(日) 希望市町で現地視察
9月2日(月) 希望市町で現地視察
⇒16時30分 農林大学校発

参加費 1万円(予定) 定員40人

詳細はお問い合わせを

鳥根県農業経営課 担い手育成第2グループ
担当：青砥・三輪 (☎0852-22-5394)

ふるさと鳥根定住財団では、鳥根県へのUIターンを促進するため、県内の受け入れ先で一定期間、農林漁業等の産業体験を行う場合に、滞在に必要な経費の一部を助成しています。

UIターン

しまね産業体験事業

対象 県外在住のUIター
ン希望者
助成期間
3か月以上1年以内

助成額 体験者助成額12万
円/月、実家に居住し産業体験を行う者6万円/月、親子連れ助成 3万円/月

対象業種 農業・林業・漁業・伝統工芸・介護

お問い合わせ 公益財団法人 しまね県立農林大学校 同財団HPアドレス
52-28-0690
<http://www.teiju.or.jp/>

しまねへUIターンしてみませんか

ふるさと鳥根定住財団 産業体験事業

さんべさん

“三瓶山” 国立公園指定



50周年記念

三瓶山は、昭和38年4月10日大山隠岐国立公園に指定され、今年で50周年を迎えます。
これを契機に、三瓶山の豊かな自然環境を次世代へ継承するとともに、三瓶山の価値や魅力を全国に発信し、たくさんの方々を訪れていただけるよう「三瓶山国立公園指定五十周年事業」が展開されます。

◀三瓶山山開きの様子



第33回三瓶山山開き

4月21日(日)

三瓶山の登山シーズンを迎えるにあたり、山開きが開催されました。参加者は神事後、三瓶山登山を行いました。山頂には積雪がありました。山頂には積雪が、多くの参加者が山頂を目指しました。今回は、山頂神社の修復のため、砂やセメント等の修復材料を運ぶ必要があります。当日は、ボランティア約50人が、山頂まで資材を運びました。9月中旬に竣工が予定されています。



三瓶小豆原埋没林公園開園十周年記念式典

4月27日(土)

小豆原埋没林公園開園十周年を記念し、藤岡大拙氏による基調講演「古代出雲の巨大神殿と縄文の森」、河野美知氏の進行によるパネルディスカッション「太古の森の伝言」が行われました。火山の噴火により埋没した、4000年前の巨木が眠る「三瓶小笠原埋没林公園」(三瓶町多根口58-2)では、多くの入館者が、その圧倒的なスケールに感銘を受けています。

第68期本因坊戦

七番勝負第一局

5月16日(木)から17日(金)

井山裕太本因坊と挑戦者高尾紳路九段の対局が、三瓶町の「四季の宿 さひめ野」で開催されました。この本因坊戦は、江戸時代の基聖「第四本因坊道策名人」が仁摩町馬路出身であることにちなんで、大田市で開催されました。

さひめ野では、対局にあわせ、指導碁や大盤解説会も開催され、多くの来場者が会場に訪れました。



▲本因坊戦の様子

今後の50周年事業の 主なイベント

- さんべ恐竜王国 7月13日から
 - 三瓶高原クロスカン トリー大会 9月29日まで
 - 稲刈り体験ツアー 8月18日
 - 記念式典 9月21日
 - 田舎の食体験ツアー 9月29日
 - 三瓶フェスティバル (収穫祭、食の祭典) 10月12日
 - ぐるっと三瓶くびきウォーク 10月13日から14日
 - さんべ花火大会 10月19日から20日
 - 平成26年3月
- ※このほか様々なイベントを企画されています。なお、開催日等変更になる可能性があります。



“三瓶山”国立公園指定50周年記念事業 “ぐるっと三瓶”石見銀山広域バス



三瓶山麓を周遊バスでグルッとひと回り 朝夕には石見銀山(大森町) 接続!!

平成25年 4月27日(土)~11月30日(土) 土・日 祝

石見銀山広域・三瓶山周遊バス運行時刻表

バス路線	発	着
石見銀山方面	三瓶温泉 (9:00)	世界遺産センター(9:46)
三瓶山方面	世界遺産センター(10:00)	三瓶自然館前 (11:00)
三瓶山周遊	三瓶自然館前 (11:20)	三瓶自然館前 (11:50)
〃	三瓶自然館前 (12:50)	三瓶自然館前 (13:20)
〃	三瓶自然館前 (13:30)	三瓶自然館前 (14:00)
〃	三瓶自然館前 (14:20)	三瓶自然館前 (14:50)
石見銀山方面	三瓶自然館前 (15:00)	世界遺産センター(15:50)
三瓶山方面	世界遺産センター(16:00)	三瓶自然館前 (17:00)

料金
石見銀山⇄三瓶各所
大人 500円
小学生以下 250円

料金
三瓶山内周遊
大人 200円
小学生以下 100円



お問い合わせ先
石見交通株式会社 大田営業所
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ701-3
TEL0854-82-0662
URL:<http://iwamigroup.jp/publics/index/60/>
申込方法:各バス停より乗車下さい。



ぐるっと三瓶

石見銀山広域バス

「5月から11月までの
土日祝日に運行」

このバスは、三瓶山のふもとを周回し、朝夕に石見銀山と三瓶山を結ぶバスです。

バス運行は、三瓶山国立公園指定50周年事業の一つで、三瓶山を周遊する

新たな魅力として、また、石見銀山と結ぶことで、相互の誘客を図ることを目的に、期間限定で運行します。

朝と夕方に三瓶山と石見銀山に直通便で接続するほか、11時から15時までの日中は、三瓶周回道路を反時計回りに4周します。

概ね1時間に1本程度の運行です。

このバスを利用することで、西の原に車を停めて三瓶に登り、北の原に下山、このバスを使って駐車場に帰ってくる等、これまでとは違った登山ルートが楽しめます。

また、バスの中では三瓶の観光スポットの案内放送が流れるので、バスに揺られながら三瓶を一周する小旅行も楽しめます。

詳しい運行時刻や運行経路は、インターネットで「ぐるっと三瓶石見銀山周遊バス」と検索して、石見交通株式会社のHPをご覧になるか、石見交通大田営業所(0854-82-0662)にお問い合わせください。

運航開始日の4月27日には、市長ら関係者が出席し、三瓶温泉街で、出発式が行われ、「らとちゃん」や「テンピー」も駆け付け、華を添えました。

式典後の始発便には、志学保育園の園児12名が乗車し、三瓶を走る新たなバスを体験しました。

◀新「朝波小学校」開校の様子



新「朝波小学校」開校

4月8日、「朝波小学校」と「富山小学校」の二校が統合した新「朝波小学校」の開校式が行われました。

全児童118名で新たな歴史を刻み始めました。

新しく制定された校歌の歌詞には「波根と朝山 富山の 古い歴史を 受け継いだ」とあり、子どもたちは、それぞれの地域と学校の伝統を引き継ぎながら、多くの仲間の中で一人ひとりの特性を認めつつ、切磋琢磨し、成長してくれるものと思います。

「富山小学校」閉校式

3月17日、4月より新「朝波小学校」への統合により閉校となる富山小学校の閉校式が同校の体育館で行われ、138年に及ぶ歴史に幕を閉じました。

富山小学校の歴史は、明治8年に山中小学校が設立されたことに始まります。

その後教育制度の変更や市町村合併による名称変更が行われ、昭和29年大田市立富山小学校となりました。



▶富山小学校、旧校舎

「池田中学校」閉校式

池田中学校の閉校式がまだ肌寒い3月17日に池田小中学校体育館で行われ、66年に及ぶ歴史に幕を閉じました。

池田中学校は昭和22年三瓶中学校池田分教場として開設されました。その後昭和29年に市町村合併により大田市立池田中学校となり、「自主・敬愛・剛健」の校訓のもと、恵まれた自然環境を生かした教育活動により開校以来多くの優れた人材を輩出してきました。しかし、近年は生徒数が減少し、第一中学校へ統合することになりました。

閉校式の後に地元実行委員会主催による「池田中学校お別れ会」が開催されました。池田中学校最後の卒業生3人が中学校の歴史を発表、練習を続けてきた箏の演奏を行ったほか、閉校にあたり自分たちの気持ちと地域の気持ちを歌にした

閉校式の後には地元実行委員会主催による「ありがとう富山小学校」が開催され富山小学校で20年来続く田植えばやしなどが披露され、児童全員が一生懸命に舞い、参加者からは大きな拍手が送られました。

▶閉校記念行事で田植えばやしを披露



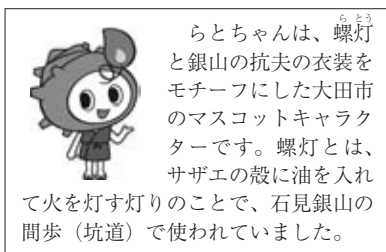
富山小学校は地域のシンボルである要害山など豊かな自然に囲まれており、「たくましく心豊かな富山の子」を校訓として恵まれた自然環境を活かした教育活動を取り入れながら行ってきました。



▶池田中学校、旧校舎

「あたたかな場所」を披露し、参加者はそれぞれに聴き入っていました。池田地区の子どもたちは、第一中学校へ登校することになりますが、新しくできる多くの仲間とこれまでに以上に勉学に取組み、選択肢の広がる多様な部活動を通して知徳体ともに充実した中学校生活を送ってくれるものと思います。

らとちゃん劇場①



シリーズ石見銀山②④ 町並み保存地区を歩く ～伝建地区における“修景”の効果～

今年のGWは好天に恵まれ、石見銀山の町並みも家族で散策を楽しむ観光客でにぎわっていました。

さて、みなさん“伝建地区”という言葉をお聞きになられたことがあるのではないのでしょうか。伝建地区とは、「伝統的建造物群保存地区」の略称で、町家や石造物等の伝統的建造物、樹木や庭園等の環境物件からなる地域固有の環境資源が集合体として価値をなしている町並みや集落を保存地区として定めたものです。その中でも国（文化庁）から選定を受けた地区を「重要伝統的建造物群保存地区」（以下、「重伝建地区」）といい、昭和50年に7地区から始まった重伝建地区も、今では全国に102地区を数えます（平成25年5月現在）。大田市には2つの重伝建地区があり、大森銀山地区は昭和62年に鉱山町として、温泉津地区は平成16年に港町・温泉町として選定を受け、それぞれ世界遺産における重要な構成資産ともなっています。

伝建地区における保存事業の主な取り組みには建造物の「修理」と「修景」があります。「修理」は、保存物件として特定した伝統的建造物について、特性の維持や継承を目的として修繕や復原を行うものです。一方「修景」は、比較的新しい既存の建造物等について、地域固有の伝統的様式をふまえた外観へと調和を行うことにより、町並みの連続性や特性の向上を図り、地区の歴史的環境を整えていくもので、保存地区内の空き地に新築を行う場合もあります。「修景」が果たす景観的整備は、保存地区の歴史的風致の向上にたいへん大きな効果があります（写真①、②）。

このような保存事業には地区の特性を守るためのルールがある一方で補助制度もあり、歴史的な環境において可能となる穏やかな暮らしや伝統的建造物を活用した個性的な店舗を求める方にとってたいへん魅力的な舞台となっています。みなさんも豊かな自然と文化的な環境の中での暮らしを実現してみませんか。



写真① 既存建物の修景例
（上：修景前、下：修景後）



写真② 新築の修景例
（上：修景前、下：修景後）

【問】 教育委員会教育部石見銀山課 ☎0854-82-1600（内線339）

温泉津竹灯籠 in 夜神楽

期日 8月14日～8月17日(予定)
会場 龍御前神社(温泉津温泉街)
 龍御前で行われる夜神楽にあわせ、神社周辺に竹灯籠を灯します。普段とは一味違う、幻想的な雰囲気になります。
【問】 小林工房
 ☎0855-65-2565
 温泉津温泉旅館組合(輝雲荘)
 ☎0855-65-2008

オリジナル創作ミュージカル「森の迷子たち」

日時 8月25日(日)
会場 大田市民会館大ホール
 一般公募による一般市民参加型ミュージカルの公演。
全席自由〈前売り〉1,000円(当日1,200円)
【問】 大田市民会館
 ☎0854-82-0938

田舎体験ツアー



主催 大田市、三瓶ツーリズム実行委員会
参加料 大人 5,000円 小人 2,500円
■稲刈り体験
期日 9月21日(土) 10時～
会場 三瓶町池田
 三瓶で米作り体験、温泉入湯付き
 特典のお米お持帰り
■田舎の食体験
期日 10月12日(土) 10時～
会場 山口町佐津目
 コンニャクや豆腐づくり体験、温泉入湯付き
 特典のお米お持帰り
【問】 おおだ定住支援センター
 ☎0854-82-1600(代)

2013三瓶高原クロスカントリー大会



期日 8月18日(日) 雨天決行
会場 国立公園三瓶山西の原
 三瓶高原クロスカントリーコース
参加料等
 ★クロスカントリー(2km、3km、5km、8km)
 一般：3,000円/高校生以下：1,000円
 ★ウォークラン(1km、2km)
 無料(当日参加も可)ウォークランは完走を目的とし、タイムはとりません。
参加資格 小学4年生以上で健康な人。ただし、5km、8kmへの出場は自己記録が5kmは35分以内、8kmは50分以内の方に限る。ウォークランは幼児以上(幼児は保護者同伴)で健康な人なら誰でも参加できます。
申込締切日 平成25年7月12日(金)
申込先 大田市教育委員会内
【問】 三瓶高原クロスカントリー大会事務局
 ☎0854-82-1600(内線313)
 ※詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.city.ohda.lg.jp/6774.html>

彼岸市「中日つあん」

期日 9月22日(日)、23日(月)
会場 大田市駅前通り
 大田市駅前通りの両側に約2キロにわたって露店が立ち並びます。
【問】 大田商工会議所
 ☎0854-82-0765

高野聖(こうやひじり)

期日 10月15日(火)
会場 喜多八幡宮、南八幡宮(大田町)
 高野聖や大轍、負轍などが行列をつくって町を練り歩きます。鳥根県指定無形民俗文化財。
【問】 大田まちづくりセンター
 ☎0854-82-6240

おおだ情報BOX

キャンドルナイト in 波根海岸

期日 7月28日(日) ※予備日8月3日(土)
会場 波根海岸
キャンドルに浮かぶ波根海岸。波の音を聞きながら幻想的な夜をお楽しみください。
【問】 波根まちづくりセンター
☎0854-85-8625

琴ヶ浜盆踊り

日時 8月13日(火)・14日(水)・15日(木)
3日間とも21時頃～
会場 琴ヶ浜(仁摩町)
太鼓の音と口説きが夜空に響き、鳴り砂で有名な琴ヶ浜海岸を会場に優雅な盆踊りが行われます。
【問】 馬路まちづくりセンター
☎0854-88-9070

海 神 楽

期日 8月13日(火) [予定]
会場 福光海水浴場
※雨天の場合は温泉津まちづくりセンターが会場
福光海岸の美しい夕日やかがり火を背景に、勇壮な舞が繰り広げられます。
【問】 小林工房
☎0855-65-2565
温泉津温泉旅館組合(輝雲荘)
☎0855-65-2008

第33回 天領さん

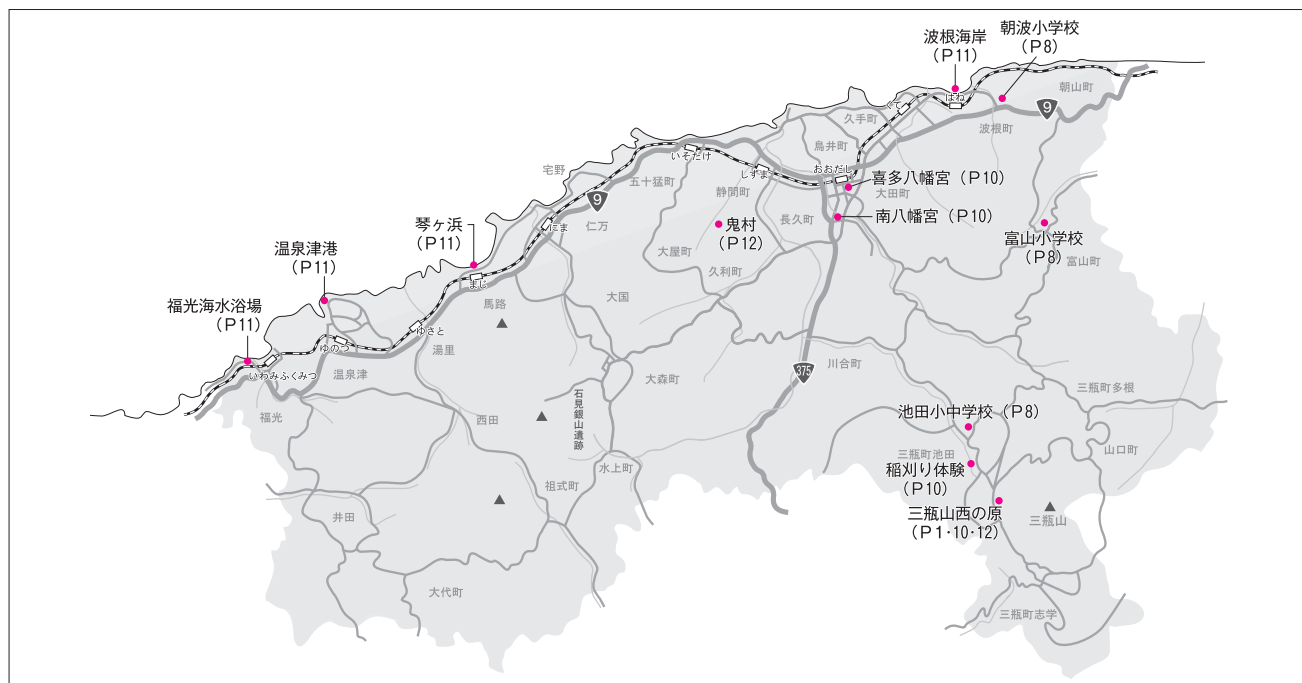
★大田会場
期日 8月3日(土)
会場 大田市民会館メイン会場
★久手会場
期日 8月4日(日)
【問】 大田市役所産業企画課
☎0854-82-1600(代)

にまごいせ祭

日時 7月27日(土) 18時～
会場 仁摩サンドミュージアム周辺
各種ステージイベントや屋台、花火など。
【問】 ごいせ祭り実行委員会 銀の道商工会経営支援センター
☎0854-88-2513

温泉津温泉夏祭り

期日 8月10日(土)
会場 温泉津港周辺
今年もやります！毎年恒例の温泉津温泉夏祭り！
花火大会はもちろん、ステージ企画やフードフェスティバルなど、催しも盛りだくさん！
【問】 銀の道商工会
☎0855-65-1110



ふるさととは今



▲笹川の左岸にある鬼岩は、2千万年前頃の凝灰岩で奇岩として県の天然記念物に指定。鬼岩前の市道沿線にトロッコ軌道があり、石膏が運び出されていました。

鉱山の開発は明治42年、鶉鷺村（出雲市大社町）の山師商人・岡有一氏が仁万に宿泊した際に鬼村で石膏が採れることを知ったのがきっかけとなりました。大正7年（1918）、鉱山所有者の塩田万市氏が、大阪石膏株式会社を創立し鬼村松代出張所を置いて経営を行いました。

昭和初期の石膏生産は、島根県が全国生産量の7割以上を占めていたといわれています。

また、鉱山から産出した石膏は、開発当初は人が静間まで背負って運び、そこから荷車で和江港へ運んで船積みしていました。大正初年に輸送の不便さを解消するため、道路がつくられ馬車運搬になり、その後、道路に沿ってレールが敷かれトロッコ軌道が和江港まで整備され、昭和15年（1940）まで操業（静間軌道株式会社）されました。

鬼村鉱山は、昭和42年9月まで60年間操業が続きました。石こうの「膏」の字の使用も鬼村が最初であったといわれています。100年前の往時を偲ぶ面影は少なく、鉱山跡は竹藪に覆われ沼地となっており、貴重な歴史を伝える人は、今はいないということです。〔参考：鬼村下自治会会報（鬼村のむかし）より〕

鬼村鉱山跡への
行き方

JR静間駅から大屋方面（市道静間大屋線）車で15分
詳しくは、大屋まちづくりセンター（☎0854-82-5580）まで

せつこう おとむら 石膏で賑わった鬼村鉱山（大屋町）

鬼村鉱山は、明治42年（1909）から昭和42年（1967）にかけて、日本国内で「石膏」の主要な産地の一つでした。

鬼村の古屋谷石膏場では、慶応年間（1867）頃より漢方薬として上方へ売られていたといわれます。石膏はコンクリートの原料であるほか、医療用のギブス、石膏ボードなどに使用されます。鬼村の石膏の品質は高く評価され、100人以上の働き手が居た地域の主要な産業でもありました。この鉱山の記録は、50年余り鉱山で勤務していた夏野金次郎氏（1898-1975・八代）の手記「石膏山記」の存在を故桜井貞光氏（久利町）が知り、貴重な記録として紹介されました。

この記録は鬼村下自治会（渡辺隆司会長）の会報でも紹介されてきましたが、その歴史に関する概要を紹介します。



▲鬼村鉱山への軌道跡と推測される道路（JR静間駅南側）

表紙 あの時～三瓶山西の原の風景（三瓶町）～

表紙の写真は現在のように植林されていない頃の三瓶山（西の原）の写真です。写真の撮られた正確な時期は不明ですが当時を知る三瓶町池田の村田有郷さんに話を聞かせていただきました。

三瓶山は大田市周辺地域の学校の遠足地として多くの人が集まっていました。当時の三瓶山は草原に覆われ、雄大な景色が広がっており、山頂まで登らずに大田市を一望できていました。草原が広がっていたため遠足で来た子供たちは山頂まで競争して登り、早い子供は30分ほどで登頂できたそうです。

現在の三瓶山は木で覆われた姿をしています。このような姿に変化してきたのは昭和46年の第22回全国植樹祭が契機となりました。国土緑化運動のために行われたこの植樹祭では島根県の木「クロマツ」の苗木1万9000本が植えられました。その後、昭和54年には県造林推進大会植樹祭が行われ、現在の三瓶山の姿へ変わっていきました。

現在、三瓶山西の原では、草原の景観や希少動植物の生息地として価値が見直され、草原の維持や火災防止を目的として毎年3月、野焼きが行われています。



三瓶山西の原

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行／大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL：0854-82-1600 FAX：0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail：o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索